

普及現地情報

発信年月日:令和 7 年(2025 年)5月26日
所 属 名:東近江農産普及課
番 号:D25003
発 信 者 名:野口、西川



高温対策に向けたミニトマト新品種現地研修会を開催しました

大中の湖ミニトマト生産部会は当課が高温・病害虫対策として提案した新品種を、本年 4 月から試作しています。部会で初めて栽培する単為結果性品種のため、品種育成元より講師を招き 5 月 8 日に現地研修会を開催し、本品種に適した栽培管理方法の習得を支援しました。

大中の湖ミニトマト生産部会は 28,000 m²の施設で 7 名の生産者が半促成、抑制、促成栽培を組み合わせ、ミニトマトの周年供給に取り組んでいます。しかし、去年は夏季の高温による着果不良と黄化病が多発し、需要に応じた安定供給ができませんでした。

この課題解決に向けて、昨年度に当課から高温でも着果が安定しやすく耐病性のある単為結果性品種「かむり」を紹介したところ、部会員 1 名が 4 月から試作に取り組むことになりました。

本品種は、部会内での栽培経験がなかったことから、育成元の園芸植物育種研究所に講師を依頼して、現地研修会を開催しました。研修会には 6 名の部会員が出席し、本品種の特徴を生かした栽培管理について理解を深めました。部会員からは、樹勢の回復方法や側枝の管理についての意見が出されるなど地域の課題解決に向けた機運が高まりました。

今後は定期的に生育状況を把握、メーカーと連携した栽培指導を通して、新品種の高温時の着果能力、黄化病の耐病性を確認し、高温時期にミニトマトが安定供給できるよう支援します。



現地研修会の様子